

静岡県藤枝市 中心市街地活性化に関する取組状況

【市人口】143,605人(H27:国調)

【中心市街地】人口:10,957人(R1.12:市調べ)、面積:約160ha

子どもや大学生など将来のまちづくりを担う人材育成からスタート！

- ・藤枝市は、中心市街地活性化に向けた取組により、商業施設やホテル、オフィス、マンションなどの都市機能が立地したが、昼間の賑わい不足や既存店の空き店舗化など新たな課題が発生。そこでICT活用に向けた独自の基盤整備や街なかのストック活用を、産学官連携によって推進し、付加価値の高い暮らしと、新たなビジネスや人の流れを生み出すまちづくりを進めており、地価の上昇や新規出店などの効果が現れている。
- ・子どもや大学生など、将来のまちづくりを担う人材育成に力を入れた取組が進められている。

主なソフト事業

○「スマイルキッズタウンふじえだ」

- ・子どもたちの手で“まち”を形成していく体験から自主性、協調性、想像力を育む教育プログラム。
- ・子どもたちで作り上げる模擬都市で、市民となり働いて報酬をもらい、税金を納めたり、買い物をしたりするなど、楽しみながら学べるイベントとして実施。



【国の支援措置】中心市街地活性化ソフト事業

○大学を核に、情報ビジネスで人の流れをつくる藤枝“活動・交流都心”創造計画

- ・BiVi藤枝内に静岡産業大学の藤枝駅前キャンパスと一体的に整備した藤枝市産学官連携推進センターを拠点として、人と産業を育て、つなぐ取組により、新たなビジネス創出、人材のマッチングなど様々な活動を実施。



【国の支援措置】地方創生推進交付金

○ICT活用エキスパート養成事業

- ・小・中学生を対象としたプログラミング教育に続く、切れ目のないICT人材育成の一環として、高校・大学・社会人を対象とした実践的なICT教育。
- ・市内産業におけるニーズに即した人材やクラウドソーシングを活用するテレワーカーを育成する事業。



【国の支援措置】地方創生推進交付金

主なハード事業

○「BiVi藤枝」の整備

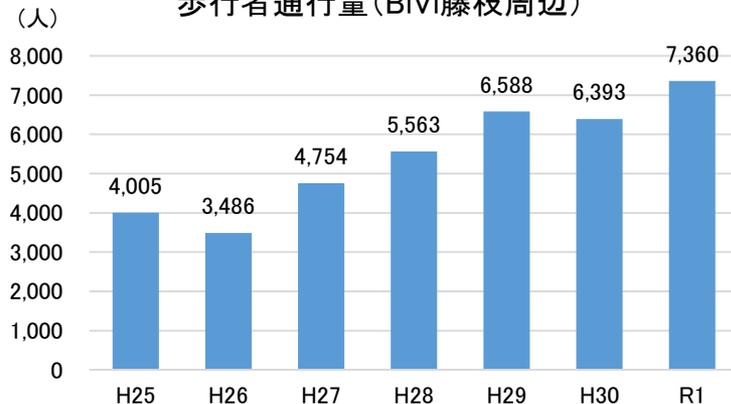
- ・中心市街地活性化の拠点施設として、藤枝駅南側の市立病院跡地に官民複合施設「BiVi藤枝」を整備(H21)。
- ・産業創出と人材育成の中核施設・藤枝市産学官連携推進センターと藤枝駅前キャンパスを設置。



【国の支援措置】暮らし・にぎわい再生事業

戦略的中心市街地商業等活性化支援事業費補助金

歩行者通行量(BiVi藤枝周辺)



中心市街地が直面する課題

- 小売業の活力低下や魅力的な店舗が少ないことから、中心市街地の生活満足度が低い状況にある。市民意識調査においても、「楽しく買い物をする店がない」「娯楽施設が少ない」といった声があがっている。
- 核となる施設の不足、古い街並みや建物の立地等から駅北地区の魅力が低下しており、特に昼間の賑わいに課題を残している。また、事業者ヒアリングにおいても、駅南北地区での活性化の偏りが指摘されている。
- 隣接する静岡市のベッドタウンとしての特性による昼間人口の流出や郊外店舗の立地から、中心市街地の昼間の人通りが少ない状況である。
- 10代後半から20代前半の若者層の転出超過が顕著であり、就職時にUターンで戻ってくる若者が少ない。
- 子育てにより仕事を辞めた女性など、潜在的な労働力やスキル等を活用する機会が必要とされる。
- 市内の産業が中小の製造業や農業中心であること、静岡市のベッドタウンとしての要素が強いことから、新たな産業が生まれにくい状況である。

中心市街地活性化の主な取組・その1

「スマイルキッズタウンふじえだ」

- 「スマイルキッズタウンふじえだ」は“まち”を子どもたちが、子どもたちの手で形成していく体験から自主性、協調性、想像力を育む教育プログラム。子どもたちで作上げる模擬都市で、市民となり働いて報酬をもらい、税金を納めたり、買い物をしたりするなど、楽しみながら学べるイベントを実施。
- イベントの前には、子どもたちでグループを形成し、全4回のミーティングを行い、施設や店舗の運営準備を行う。
- 2013年より実施
- 実施主体：NPO法人スマイルプロジェクト



藤枝“活動・交流都心”創造計画

- 大学を核に、情報ビジネスで人の流れをつくる藤枝“活動・交流都心”創造計画
- BiVi藤枝内に静岡産業大学の藤枝駅前キャンパスと一体的に整備した藤枝市産学官連携推進センターを産学官の連携拠点として、地域産業の成長と新たなビジネス創出、人材育成や雇用のマッチングなど様々な活動を実施。
- 雇用創出と実戦力のある人材育成の両立による学生の確実な地元定着の流れの創出を図るため、産学官金で構成する藤枝市産学官連携推進協議会を実施主体に、学生が地元企業に直接触れ、魅力を知る機会として、学生が直接企業の経営者や若手社員に取材し、企業の魅力を発信する冊子の作成や地域企業と学生との交流会、地域や地元企業の課題を知り解決策を探るアクティブラーニングなどの情報ビジネス創造事業を展開。
- 実施主体：藤枝市産学官連携推進協議会

ICT活用エキスパート養成事業

- 小・中学生を対象としたプログラミング教育に続く、切れ目のないICT人材育成の一環として、高校・大学・社会人を対象とした実践的なICT教育。静岡産業大学駅前キャンパス及び藤枝市産学官連携推進センターを会場にした講義、またeラーニングによる受講環境を構築し、市内産業のニーズに即した人材やクラウドソーシングを活用するテレワーカーを育成する事業。
- 実施主体：藤枝ICTコンソーシアム

中心市街地活性化の主な取組・その2

「BiVi藤枝」の整備

- 志太榛原広域(4市2町)における中核都市の中心市街地に相応しい賑わいの創出と都市機能の高度化を目指し、民間活力導入による市有地を有効活用した官民複合施設を整備。
- 市が民間事業者と20年間土地を賃貸(事業用借地権設定)し、民間事業者が建物を建設・所有・維持管理するとともに、テナントとして市が図書館を整備。
- 商業店舗、大学駅前キャンパス、市産学官連携推進センター、美容学校、子育て支援施設、市立図書館、シネマコンプレックス、駐車場等。

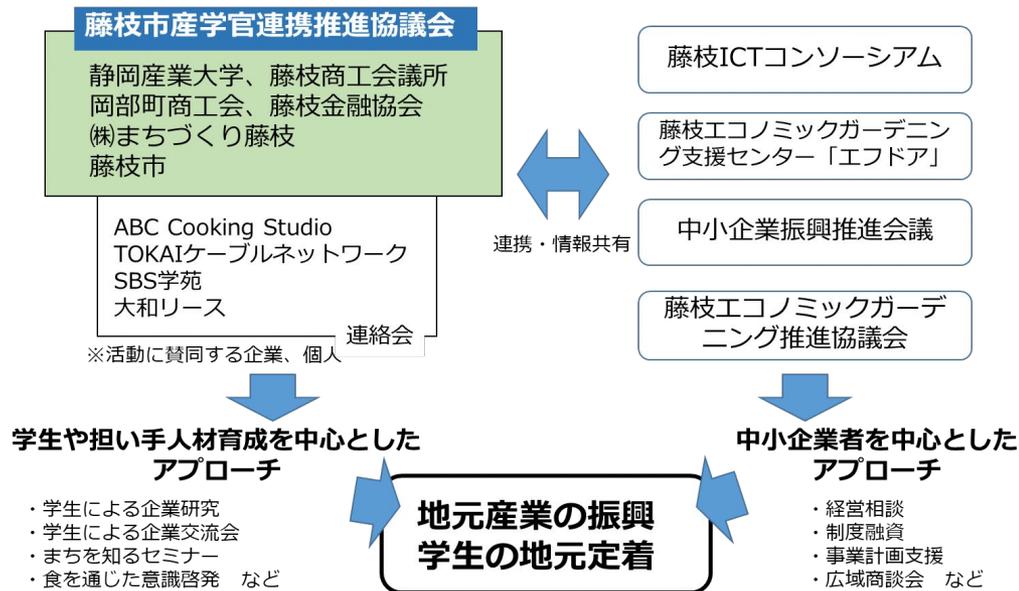
トライアルスペース開設・運営事業

- BiVi藤枝1階にある静岡産業大学藤枝駅前キャンパス前のスペースを使用し、起業創業や新ビジネスの創出を支援するとともに、空き店舗等を活用した街なかへの新たな店舗出店を促すことで、中心市街地の魅力やにぎわいを創出するため、起業を目指す者や起業して間もない者が試行的に気軽に出店できるトライアルスペース「kokokara」を運営。
- ハンドメイド雑貨やコーヒー・タピオカなどの販売をはじめ、ハーバリウムのワークショップなどさまざまな業種の方が積極的に出店。また、マーケティング調査として継続的に出店をする方や、貸し切りでマルシェを開催する団体も出てくるなど、駅周辺の賑わい創出の場として定着。
- 実施主体:(株)まちづくり藤枝

中心市街地活性化における官民連携

【藤枝市産学官連携推進協議会】

- 静岡産業大学、まちづくり会社、藤枝商工会議所、金融機関、民間企業等により、産学官連携推進協議会を組織し、地域企業のICT活用による成長支援と一体的に、学生の地域企業との協働による情報ビジネス創出・まちづくりへの参画等を進め、県内外からの学生誘導と地元定着の流れを確実に作るとともに、新ビジネスにより稼ぐ力を生み出し、新規創業と街なかへの展開を図る。
- 地域産業の成長支援と情報ビジネス創出、企業と学生のコミュニケーション創出、雇用と就職のマッチングを行い、地域産業の稼ぐ力の向上、着実な地元定着の流れの創出、中心市街地の恒常的な賑わい創出とビジネスの街なか展開による経済波及を図る。



中心市街地活性化の取組による主な効果

- 市内の小中学生、高校生をはじめ、市外からも参加者が集まるとともに、子どもだけでなく大人も集まり、中心市街地の賑わい創出に寄与している。
- 住環境整備や図書館・映画館等の生活に付加価値をもたらす施設整備、藤枝駅前一丁目8街区市街地再開発事業や中心市街地のタウンプロモーション強化の取組み、各種イベントの実施などにより、「住む場所」としてのブランド力が向上。特に分譲マンションや戸建て住宅の供給など民間投資が旺盛で販売も堅調であることから、中心市街地区域内の「居住人口」は増加し続けている。
- 国際観光ホテルを中心とした複合施設など広域拠点性を高める施設が整備され、「しずおか中部の生活・交流拠点」としてのポテンシャルが高まっている。そのため、広域性・公共性の高い医療・社会福祉関係施設など各種事業者のエリア内進出が促進され、中心市街地区域内の「従業者数」は増加し続けている。
- 上記のような効果から不動産価値の向上がみられ、特に路線価の上昇率は静岡県内において4年連続トップとなった(平成27～30年度調査)。また、空き店舗等への出店が顕著であり、平成27年1月から平成28年5月までの間に61事業所が出店し、そのうち30店が空き店舗への出店であった。
- 市民意識調査において、中心市街地全体の満足度を聞いたところ、「満足」と回答する割合は年々増加しており、13.8%(平成18年)から32.2%(令和元年)まで増加している。
- プログラミング学習をはじめとするICTスキル習得環境や、子育て世代に新しい働き方を提供するクラウドソーシング環境が整い、活用する市民の数も増えてきている。



今後の課題と対応

- 「藤枝駅前一丁目6街区第一種市街地再開発事業」や「大学を核に、情報ビジネスで人の流れをつくる藤枝“活動・交流都心”創造計画」をはじめとした、中心市街地活性化基本計画(第3期)の事業を中心に、これまでどおり民間活力を積極的に導入した取り組みを実施し、中心市街地のさらなる活性化、賑わいの創出を目指す。
- 人材育成に関する取り組みについては、効果の発現までに時間を要するため、今後も継続的に産学官連携による情報ビジネス教育等を展開し、実戦力のある人材育成のための環境づくりを行っていく。